

Phosphous フォスフォラス

by Roger Morrison ロジャー・モリソン（現代のアメリカのホメオパス）

重要なポリクレスト（大きなレメディ、使用頻度が高いレメディ）の一つとして、Phos.は様々な病のステージにおいて、明確な理解が必要なレメディである。そうであるにも関わらず、ビソルカス（Vithoulkas：現代のギリシアのホメオパス）以外の、過去の偉大なホメオパスが一人として Phos.の真の中心となるものを認識していなかったのは興味深いことである。ビソルカスが考える Phos.の本質のエッセンスは、炭酸飲料水が発泡する泡(bubbles)のような「拡散（diffusion：何かにより広範囲に広がること）」である。

Phos.は陽気・活発・フレンドリー・おしゃべり好き（bubbly）で、社交的（out-going）で、外交的（extroverted）である。Phos.の知性・創造性・熱意は生き生きしてキラキラ（sparkling）と輝いて見える。

Phos.は、自分と他人との間にしっかりとした境界線があるようには見えない。それは Phos.が地に足がついた安定した状態ではなく、自分の中心となるものがないからである。Phos.は非常に同情心が強く、見知らぬ人でさえ関わろうとする。しかし、一旦他のことに注意が向くと、自分が手助けしていたその見知らぬ人のことはすっかり忘れてしまう。ゆえに Phos.は一見「気まぐれ」に見えるかもしれない。

Phos.は仲間や友達（company）など誰かと一緒にいるのが大好きである。また何でも信じやすく、影響されて暗示に引っかかりやすい。

この弱い境界線にも払うべき代償がある。それは Phos.の病の最初の段階である強い不安であり、Phos.のマインドに侵入してきた様々な思いや考えは、不安の原因になってしまう。しかしながら影響されやすい Phos.はすぐに簡単に安心させられやすい。

一般的に、その不安は健康への心配となって現れる。しかし Phos.が「流動性不安・浮遊性不安 free floating anxiety」や何か悪いことが起こるかもしれないという恐怖をどんどん引き起こすと、病はより悪化（<）していく。Phos.は多くの恐怖があり、特に暗闇・深い水・死の恐怖などは、Phos.の境界線が欠けているということを象徴的に表している。そして、そのような不安は恐怖へと悪化し、身体までも衰弱させてしまう。恐怖は特に Phos.が一人の時に現れやすく、不安や恐怖は誰かが一緒にいることで好転（>）する。

より病理が進むと、Phos.は他人や環境からの刺激に対して非常に敏感になり、Phos.の有名な「仲間を求める Company, desire for」という欲求は消えてしまう。誰かと一緒にいたいと思わなくなり、見知らぬ人に耐えられなくなり、誰かの相談に乗ってあげたいとも思わなくなる。そして、より内側にある精神的な活気がなくなると、「bubbly」で「sparkling」な性格は消えてしまう。そのような Phos.は、緩慢で鈍くなり、無関心、冷淡になる。